

道路空間における滞在のための 設えと活動

—宇都宮市オリオン通りオープンカフェ
の実践を通して—

ARRANGEMENTS OF ELEMENTS AND ACTIVITIES FOR STAY ON THE STREET SPACE

— Practical study on Sidewalk Cafe in the Orion
Street, Utsunomiya city —

安森亮雄 — * 1 渡邊 翼 — * 2
泉山壘威 — * 3

Akio YASUMORI — * 1 Tsubasa WATANABE — * 2
Rui IZUMIYAMA — * 3

キーワード：
オープンカフェ, 商店街, 公共空間, 設え, アクティビティ調査

Keywords:
Sidewalk cafe, Shopping street, Public space, Arrangement of
elements, Activity research

The aim of this paper is to clarify the arrangement of elements and activities on street space through the practice of the Sidewalk Cafe in the Orion Street, Utsunomiya city. First, the activities through people's postures and situation and their change are examined. Secondly, the arrangement of elements such as furnitures and advertisements in relationship to adjacent buildings are examined. By integrating them, the sets of the arrangements and activities are analyzed. Finally, through the sequence of the set, the characteristics of the street space are clarified.

1. 調査の背景と目的

地方都市の中心市街地では、人口減少や、市街地周縁部への大規模店舗や住宅地の拡張を背景として、空洞化が進行し、空地や空店舗が増加している。近年、こうした状況を改善し、中心市街地に賑わいを取り戻すために、空地や道路を人々の居場所として活用する取り組みがなされており、街路で休憩できるオープンカフェや、駐車場の一部を歩行者の居場所にするパークレットなどの試みが行われつつある。栃木県宇都宮市のオリオン通り(図1)の商店街でも、多くの地方都市中心市街地と同様に空店舗や空地がみられるが、現在、その改善のために人々が自由に滞在できる家具等を設置するオープンカフェ^{注1)}を実施しており、従来は商業や交通の空間であった商店街に人々の居場所を創出することを目指している。オリオン通りでは、オープンカフェの実施により、店舗ごとに家具等を配置する設えと、それに応じた人々の活動^{注2)}がみられる。こうした都市の新たな空間と活動の実態を捉えることは、都市の縮小化に対応した賑わいの創出や、地方都市の活性化、従来の日本の都市空間の中で乏しいとされてきた公共空間のあり方を考える上で、有意義なものと考えられる。筆者らは、このオープンカフェのプロジェクトに、地域のまちづくり団体や商店街とともに企画段階から参加しており、本稿では、宇都宮市オリオン通りの商店街におけるオープンカフェの実践を通じた、道路空間における滞在のための設えと活動について調査報告する。

2. 既往研究と本調査の概要

都市の空地等の活用について、筆者らは、家具等の配列による空間的な側面に着目し、宇都宮市中心市街地のイベント時における空地の

一時利用の設えについて報告した¹⁾。また、人々の利用に関する活動的な側面として、筆者らは、池袋駅東口におけるオープンカフェ社会実験を事例としてアクティビティ評価手法を検討した²⁾。本調査は、これらの設えにおける空間と、人々の利用における活動の両側面を合わせて、オープンカフェの実態を明らかにするものである。オープンカフェに関する既往の研究には、近年実施されている社会実験の事例を比較検討するもの³⁾、社会実験により道路上の設置場所を検討するもの⁴⁾、河川沿いの公共空間利用を検討するもの⁵⁾等がみられ、これらはいずれも、アンケート調査を中心にその効果等を検討するものである。また、商店街における行動に関する研究では、行動を誘発する要素と歩行者の行動について検討するもの⁶⁾がある。これらに対して、本稿は道路空間における滞在のための設えと活動の関係からオープンカフェの特徴を捉えるものであり、中心市街地商店街におけるオープンカフェの実践を通して、こうした検討をしたものはみられない。

本調査では、オープンカフェの特徴を人々が滞在するための空間として捉えるために、まず、利用する人々の活動、および家具等による設えをそれぞれ検討し、それらを重ね合わせることで、両者の関係を検討する(図2)。また、オープンカフェの実施前後や、1日の時間的な変化などの通時的な特徴も併せて検討し、これらを総合して、道路空間におけるオープンカフェの特徴を明らかにする。人々の活動は、一定時間毎の活動を観察するアクティビティ・スキャン方式^{注3)}により記録した。また、オープンカフェの企画段階で参加が決まっていた7店舗は、実施前の状況も調査して実施後と比較し、2017年4月末の実施から約半年が経過した10月の平日に、その後に参加した10店舗を加えた計18店舗について調査した(表1)。

¹⁾ 宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授・博士(工学)
(〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2)

²⁾ ㈱MDI 修士(工学)

³⁾ 東京大学先端科学技術研究センター 助教・博士(工学)

¹⁾ Assoc. Prof., School of Regional Design, Utsunomiya Univ., Dr. Eng.

²⁾ MDI Co., Ltd, M. Eng.

³⁾ Assist. Prof., Research Center for Advanced Science and Technology, Univ. of Tokyo, Dr. Eng.

3. オリオン通りとオープンカフェの概要

本調査で対象とするオリオン通り（図1, 3）は、昭和22年に整備され、当時はアーチ型のネオンがかかり、「東洋一」と言われるほどの賑わいをみせた。平成5年にアーケードが設置されたが、現在は、空き店舗が約13%を占めている（20/149店、表2）。こうした状況を背景に、人々が滞在できる居場所と、新しい通りの風景を創出し、賑わいを取り戻すことを目的として、オープンカフェが始まった（表3）。都市再生特別措置法による道路占有許可の特例により実施されたもので、一年を通して椅子・机やパラソルを店舗毎に設置し、商店街を買い物だけではなく、休憩や憩いなどで滞在する空間にしていくものである。一般に、オープンカフェは、道路中央や広場で行われる「独立型」が多いが、本事業は商店街で実施することを前提に、店舗前を活用する「地先型」として実施された^{注4)}。事業主体は、NPO法人宇都宮まちづくり推進機構であり、オリオン通りに位置する2つの商店街が参加している。設えられた家具等は、各店舗が自前で用意したもの、事業主体が貸し出すものとして、既製の椅子・机・パラソルと、県産木材で新規に制作した椅子・机という3種類がある。筆者の安森と渡邊が所属する宇都宮大学安森研究室は、機構の一員として企画および家具設計に参加するとともに、調査を実施した。筆者の泉山は、他都市でのオープンカフェの実践をふまえてアドバイザーとして参加し、主宰するソトノバ^{注5)}がアクティビティ調査手法に協力した。2016年10月に一部区間で社会実験を行い、2017年4月末から実施している。本調査は、商店街の地先型のオープンカフェの実践に基づく調査として、有意義なものと考えられる。



図1 宇都宮市の中心市街地



図3 オリオン通りのオープンカフェ参加店舗

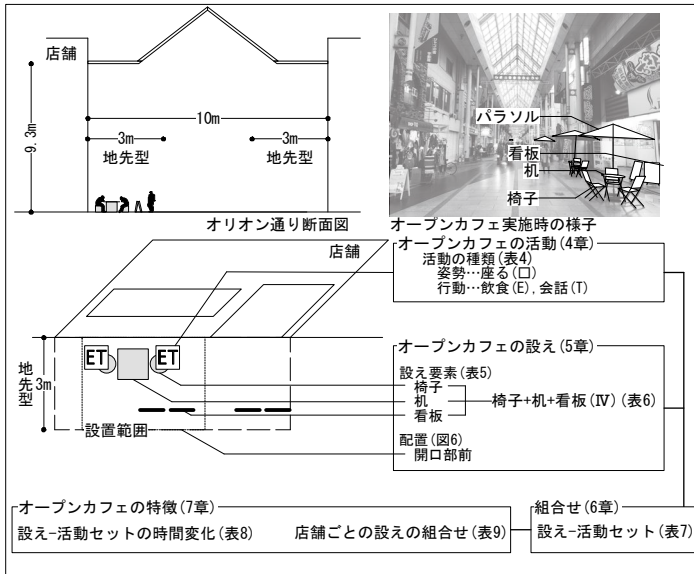


図2 分析モデル

4. オープンカフェの活動

4.1 活動の種類と実施前後での変化

オリオン通りのオープンカフェにおける人々の活動を把握するために、まず活動の種類を、「座る」「立つ」「歩く」などの人の姿勢と、具体的な行動から検討した（表4）。その結果、「座る」姿勢では「飲食」が多くみられ、「立つ」姿勢では「看板を見る」や「買い物」が多くみられた。「歩く」は、滞在するものではないが、商店街で実施するオープンカフェでは、歩くこと自体の増加や、歩きながらの活動も重要であるため検討すると、スマートフォンで話したり操作するもの（以下「スマホ」）が多かった。また、いずれの姿勢においても、「会話」は多くみられた。さらに、オープンカフェの実施前に参加が決まっていた7店舗について、オープンカフェの実施前後の活動の変化を比較した（図4）。全体的に活動する人数が増加しており、なかでも、看板や店舗の前に「立つ」が増え、特に昼頃を中心にオープンカフェによって店舗前での活動が増えたことが分かる。

4.2 実施後の活動の特徴

オープンカフェに参加した全18店舗について、時間毎に店舗前での活動を検討した（図5）。その結果、12:00と13:00の昼の時間帯^{注6)}に最も人が多く、次いで、16:00から19:00の夕方の時間帯でも多くみられた。オリオン通りの通行量は、宇都宮市の調査⁷⁾によると、平日約7,000人/日、休日約10,000人/日であり、平日の時間毎の通行量は、最大が12時～13時（1,076人）、次いで18時～19時（956人）がピークである。本調査の活動量が昼と夕方に多いことは、概ね通行量に比例していると言える。また、この2つの時間帯は食事の時間帯であり、参加店

表1 オープンカフェ参加店舗 (18店舗)

No	店舗名	業種	調査日		営業時間	設置家具
			実施前	実施後		
1	News Cafe	飲食	4/23	10/10	10:00~19:00	自前、貸出新規
2	八百藤	販売	10/10	10/10	9:00~17:00	自前、貸出既製
3	宮カフェ	飲食	4/23	10/10	10:00~19:00	自前、貸出新規
4	アミューズメント タツミ	遊戯	4/23	10/10	9:00~24:00	自前、貸出既製
5	JD TERRACE	飲食	4/23	10/19	11:30~1:00	自前、貸出既製
6	カレッジショップ フジ	飲食	4/23	10/19	11:30~20:00	自前、貸出既製
7	ぐるどんっ!	飲食		10/17	11:30~2:30	自前、貸出既製
8	ART PLAZA	販売	4/23	10/17	10:00~20:00	自前
9	山内家	飲食	4/23	10/17	10:00~21:00	自前、貸出既製
10	そばとん	飲食		10/17	11:00~14:30 17:30~1:00	自前、貸出既製
11	Bagus	飲食		10/19	11:00~1:00	自前、貸出既製
12	PEQUE	飲食		10/19	17:00~1:00	自前、貸出既製
13	ミスズ洋装店	販売		10/6	10:30~18:00	自前、貸出既製
14	ナナケパブ	飲食		10/18	10:00~21:00	自前、貸出既製
15	Festa	複合		10/20	10:00~20:00	自前、貸出既製
16	L'valletta	飲食		10/16	11:30~13:30 17:00~1:00	自前、貸出既製
17	ラッキー商会	遊戯		10/16	9:00~22:45	自前、貸出既製
18	楽味	飲食		10/16	11:30~24:00	自前

表2 オリオン通りの店舗

業種	地上階				上層階		合計
	飲食 (61)	販売 (46)	遊戯複合 (20)	服飾物販	空店舗 (26)	空地 (2)	
地上階	43	18	23	11	14	109	2
上層階	18	2	3	11	6	40	
合計	61	20	26	22	20	149	2

表注) 9月21日の時点での店舗数

表3 オープンカフェプロジェクトの概要

名称	宇都宮まちなかオープンカフェプロジェクト
期間	2017年4月29日(土)～午前11時～午前0時
主催	NPO法人 宇都宮まちづくり推進機構
協力	宇都宮曲師町商業協同組合 宇都宮オリオン通り商店街振興組合 宇都宮市
関連法規	都市再生特別措置法による道路占有許可の特例
家具	1. 自前家具 (自前) 2. 貸出既製家具 (貸出既製) 3. 貸出新規家具 (貸出新規)

舗に飲食店が多いことにも対応していると考えられる。さらに、昼と比べて夕方の方が「座る」という行動が多く、これは、オリオン通りが通勤・通学路となっているために学生や社会人が帰宅時に立ち寄り、夜間営業している店舗が多いことも理由であると考えられる。

5. オープンカフェの設え

5.1 オープンカフェの設え要素とその配置

本章では、オープンカフェの空間的側面として、家具等の設え要素について検討する。設え要素は大きく、椅子・机・パラソル等の「滞在」のための要素と、店舗の什器等の「販売」のための要素、看板等の「情報発信」のための要素に分けられる(表5)。設えの寸法は、代表的なものとして、既製品家具では、椅子(W 425×D 620×H 910)を3台、机(W 685×D 685×H 720)を1台、パラソル(W 2480×D 2480×H 2260)を1台を基本セットとしている。また、新規制作家具では、椅子(W400×D 400×H 520)は重ねて本棚としても使用でき、机(W 700×D 700×H 700)は折りたたみ収納できるものを筆者らが設計した⁸⁾。オープンカフェの実施前後で比較すると、椅子、机、パラソル、看板は増加し、それ以外は大きくは変わらなかった。これは、椅子、机、パラソルが各店舗に貸し出されたことと、客数の増加を見込んだ店舗が看板を多く設置したためと考えられる。

また、これらの設え要素の商店街の店舗前における配置を、壁面前、開口部前、店舗内との連続、店舗と通りの間として捉えた(図6)。このうち、店舗の内外で什器が連続して配置されているものが比較的多くみられ、商店街の地先型の特徴が表れていると考えられる。

5.2 設え要素の組合せ

前節で検討した設え要素は、要素どうし近くに配置されることで、組み合わせて設えられている。そこで、各設え要素の距離が1m以内にあるものを設え要素の組合せとして整理した(表6)。その結果、

同じ要素を複数並べるものとして看板(Ⅰ)と販売什器(Ⅱ)がみられた。また、複数種類を組み合わせるものでは、椅子と机の滞在のための組合せ(Ⅲ)と、椅子と机に加えて、情報発信のための看板や、販売のための什器を併せて設えるもの(Ⅳ)がみられた。

6. オープンカフェにおける設えと活動の組合せ

設え要素の組合せ(5章)をもとに、そこで行われる活動の種類(4章)を合わせて検討し、オープンカフェの空間と活動の両側面による「設え-活動セット」を整理した(表7)。各店舗において、1時間を1シーンとして、設えの組合せごとに、活動で観察された人数を含めて検討した。

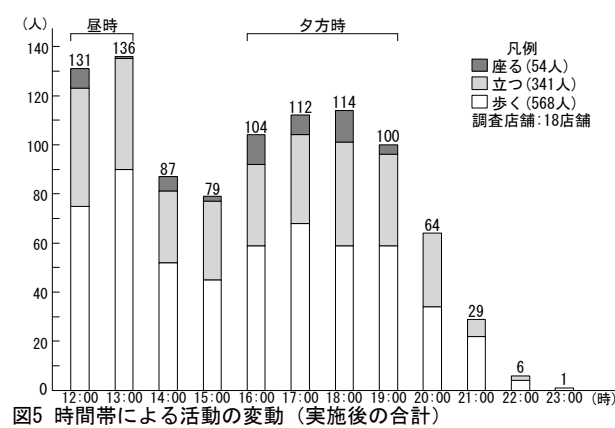
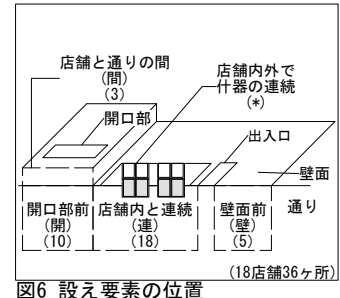
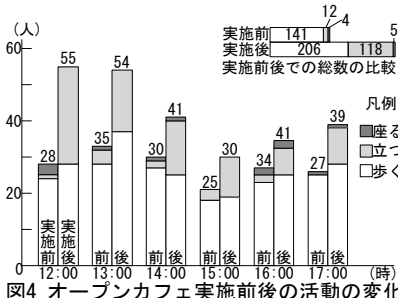
まず、複数の看板が並ぶ設え(Ⅰ)における「立って看板を見る」(Ⅰ-1)という活動が、全体を通して多く見られ、商店街に特徴的な設えと活動のセットであると言える。なかでも複数の人々で会話しながら看板を見る場合が多く(RT複数)、こうした看板は店舗と通りの間の敷地内に設える傾向にあった。また、看板の前で1人で「歩いてスマホを操作する」(Ⅰ-2)ものもみられた。これらはいずれも、各店舗が自前で用意した看板である。

次に、複数の販売什器が並ぶ設え(Ⅱ)では、商店街の八百屋(No.2)で、複数の人々が「立って買い物をする」賑わいのある活動が多くの時間で見られた。自前の販売什器とともに、貸し出しのパラソルを利用して、店舗の内外で連続して什器を設えており、八百屋の販売の慣習的な設えが、オープンカフェのパラソルを利用することで道路空間に延長されたものと捉えることができる。

次に、椅子と机が組み合わさった設え(Ⅲ)は、店舗の壁の前で、パラソルも用いて囲まれた空間を形成するものが多い。こうした比較的落ち着いた空間において、「座って飲食をする」シーン(Ⅲ-1)が見られ、複数人で会話を併せて行う傾向があった。また、「歩いて

表4 活動の種類

行動姿勢	飲食(E) (48)	看板を見る(R) (241)	スマホ(D) (231)	人を眺める(P) (8)	会話(T) (582)	買い物(S) (74)	遊び(M) (33)	何もしない (133)
座る(□) (54)	43	0	24	7	42	0	22	0
立つ(○) (341)	5	240	10	0	240	74	7	2
歩く(△) (568)	0	1	197	1	300	0	4	131



滞在	販売				情報発信				その他
	椅子	机	パラソル	什器	トルソー	ハンフレッツ	看板	のぼり旗	
平面表記	椅子	机	パラソル	什器	トルソー	ハンフレッツ	看板	のぼり旗	植栽、丸
前	28	8	5	14	1	3	33	30	21
後	110	30	20	15	3	5	46	30	26

平面表記	複数看板	複数販売什器	椅子+机	椅子+机+看板、什器
	Ⅰ (12)	Ⅱ (2)	Ⅲ (7)	Ⅳ (15)

スマホを操作する」シーン(Ⅲ-2)もみられた。

さらに、こうした椅子・机に加えて看板や什器を併せ持つ設え(Ⅳ)では、多様なシーンがみられた。このうち、「座って飲食をする」もの(Ⅳ-1)では、4~5人で会話や放課後の遊びを同時に行う活動がみられた(EDMT4, 5)。パラソルの下で看板とともに設えられ店舗内と連続することで、道路空間に賑わいが形成され、「地先型」のオープンカフェの特徴が表れていると言える。これと同様な設えで、店舗の窓の前などで1人で「座って人を眺める」(Ⅳ-2)ものもみられた。これらは、看板は見られずに境界をつくる要素として、その横で座る行動を促しており、新規の制作家具が該当している。次に、立っているシーンでは、「立って看板を見る」もの(Ⅳ-3)が多く、特に複数の人で会話しながらの場合が多い。また、「立って買い物をする」(Ⅳ-4)では、買い物をしながら看板を見て会話する行動が多く、建物の販売カウンターの前に多人数が滞在する場面がみられた(SRT10, 11)。これらは、椅子・机の横で、看板の前に立つ活動が主になっているものである。また、設えと関連せずに「歩いてスマホを操作する」もの(Ⅳ-5)や、「遊び」を行うもの(Ⅳ-6)もみられた。

以上の設えと活動の関係において、多くのシーンが該当する傾向をみると(図7)、まず、複数看板を立てて見る(Ⅰ-1)という商店街ならではの設えと活動のセットが基本としてある。さらに、椅子・机に加えて看板や什器を併せ持つという、商店街で実施するオープンカフェらしい混成した設えが、椅子・机に座る(Ⅳ-1, 2)、看板を見る(Ⅳ-3, 4)、その前を歩く(Ⅳ-5, 6)という多様な活動に対応していることが分かる。

7. オリオン通りにおけるオープンカフェの特徴

7.1 オリオン通りにおける設え-活動セットの時間変化

前章で導いた「設え-活動セット」をもとに、オリオン通りにおけるオープンカフェの特徴を検討するため、まず、それらの1日の中での変化を時間毎に整理した(表8)。

まず、オープンカフェで「座る」活動は、夕方の16:00からと17:00からの時間帯に集中している。椅子と机のみの設え(Ⅲ)より、看板や什器を併せ持つ設え(Ⅳ-1, 2)に座る傾向がある。

次に、「立つ」のうち「立って看板を読む」ものは、昼の12:00から夜の20:00頃まで継続的に見られる活動である。その一方で、「立って買い物をする」は、15:00の時間帯に集中しており、商店街の購買行動として特徴的なものである。前後の時間をみると、昼の12:00頃から八百屋の店舗内外の什器の設え(Ⅱ)で買い物をする行動から、15:00以降に飲食店のカウンターの前に椅子・机と看板のある設え(Ⅳ-4)で、会話しながら買い物をする行動に移行しているのが分かる。

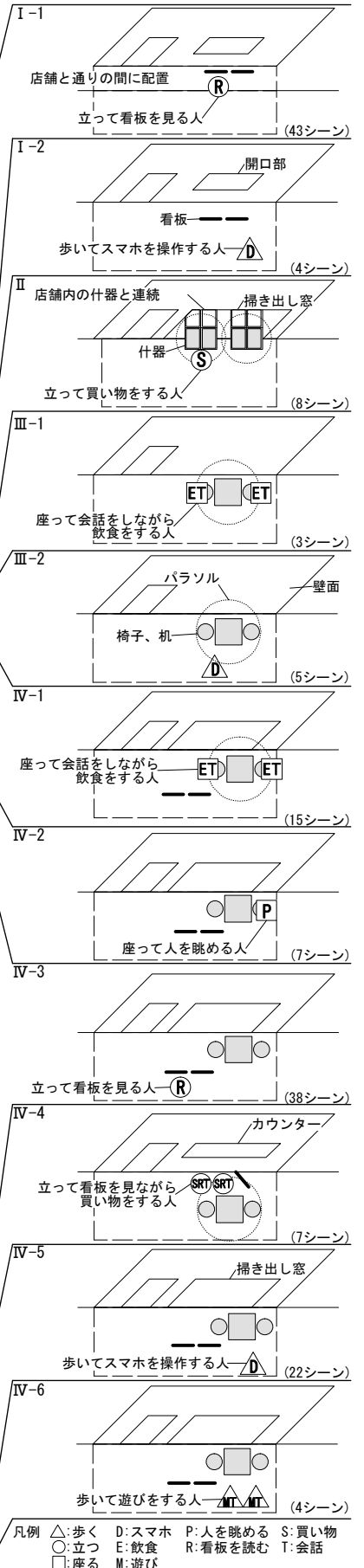
さらに、「歩く」活動は、昼の12:00から13:00と、夕方の17:00の時間帯に集中している。オープンカフェに滞在するものではないが、商店街全体の活動の変動(図5)に連動してみられる傾向である。以上のように、オープンカフェの活動と設えは、特定の時間帯と対応関係が見られることが分かった。

7.2 店舗毎の設えの組合せ

設え要素の組合せ(5章)は、単独ではなく、店舗毎に複数が組み合わせて設えられることが多い。そこで、店舗毎の設えの組合せを検討した(表9)。

表7 設え-活動セット

資料番号	設え要素の組合せ(表6)	要素の種類	要素の配置(図6)	活動の種類(表4)	
5-14	自	自	間	R1 ○	
5-15	自	自	間	R1 ○	
5-16	自	自	間	R1 ○	
5-17	自	自	間	R1 ○	
7-17	自	自	間	R1 ○	
16-21	自	自	間	RT2 ○	
5-19	自	自	間	RT2 ○	
7-18	自	自	間	RT2 ○	
5-20	自	自	間	RT3 ○	
7-19	自	自	間	RT3 ○	
5-12	自	自	間	RT4 ○	
5-14	自	自	間	RT4 ○	
5-18	自	自	間	RT4 ○	
5-15	自	自	間	RT4 ○	
5-17	自	自	間	RT5 ○	
16-12	自	自	間	RT6 ○	
16-18	自	自	間	RT6 ○	
16-20	自	自	間	RT6 ○	
16-17	自	自	間	RT9 ○	
16-19	自	自	間	RT11 ○	
11-12	自	自	連	D1 △	
11-19	自	自	連	D1 △	
3-13	自	自	窓	D1 △	
6-15	自	自	窓	D1 △	
他23例					
2-13	自	既	連	* S10 ○	
2-14	自	既	連	* S6 ○	
2-16	自	既	連	* S8 ○	
2-12	自	既	連	* S9 ○	
2-15	自	既	連	* S9 ○	
2-13	自	既	連	* ST2 ○	
2-15	自	既	連	* ST2 ○	
2-14	自	既	連	* ST8 ○	
15-16	椅子+机	既	壁	EDMT2 □	
15-17	椅子+机	既	壁	EMT2 □	
15-12	椅子+机	既	壁	ET3 □	
15-17	椅子+机	既	壁	D1 △	
15-19	椅子+机	既	壁	D1 △	
17-19	椅子+机	既	壁	D1 △	
15-12	椅子+机	既	壁	DT3 △	
15-12	椅子+机	自	連	ED1 ○	
10-19	椅子+机	自	連	ET4 ○	
14-18	椅子+机	自	連	ET4 ○	
15-12	椅子+机	自	連	ET4 ○	
14-18	椅子+机	自	連	ET5 ○	
15-18	椅子+机	自	連	EDMT2 ○	
15-17	椅子+机	自	連	EDMT3 ○	
15-15	椅子+机	自	連	EDMT4 ○	
15-16	椅子+机	自	連	EDMT5 ○	
他6例					
11-16	椅子+机+看板+什器	自	連	P1 ○	
17-13	椅子+机+看板+什器	自	連	P1 ○	
3-14	椅子+机+看板+什器	自	新	連	P1 ○
4-16	椅子+机+看板+什器	自	既	窓	P1 ○
4-17	椅子+机+看板+什器	自	既	窓	P1 ○
6-17	椅子+机+看板+什器	自	既	窓	P1 ○
6-18	椅子+机+看板+什器	自	既	窓	P1 ○
9-18	椅子+机+看板+什器	自	既	連	R1 ○
1-16	椅子+机+看板+什器	自	新	連	R1 ○
11-13	椅子+机+看板+什器	自	既	連	R1 ○
14-12	椅子+机+看板+什器	自	既	連	R1 ○
3-12	椅子+机+看板+什器	自	新	連	R1 ○
3-14	椅子+机+看板+什器	自	新	連	R1 ○
9-12	椅子+机+看板+什器	自	既	連	R1 ○
9-20	椅子+机+看板+什器	自	既	連	R1 ○
9-15	椅子+机+看板+什器	自	既	連	R2 ○
9-16	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RDT2 ○
12-20	椅子+机+看板+什器	自	既	連	* RT2 ○
14-12	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT2 ○
14-15	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT2 ○
3-18	椅子+机+看板+什器	自	新	連	RT2 ○
9-12	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT2 ○
9-14	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT2 ○
11-21	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT3 ○
12-20	椅子+机+看板+什器	自	既	連	* RT3 ○
9-18	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT3 ○
11-12	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT4 ○
11-13	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT4 ○
11-20	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT4 ○
12-18	椅子+机+看板+什器	自	既	連	* RT4 ○
11-19	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT5 ○
11-18	椅子+机+看板+什器	自	既	連	RT6 ○
他13例					
15-15	椅子+机+看板+什器	自	既	連	SRT1 ○
15-16	椅子+机+看板+什器	自	既	連	SRT10 ○
15-17	椅子+机+看板+什器	自	既	連	SRT11 ○
15-15	椅子+机+看板+什器	自	既	連	SRT2 ○
15-18	椅子+机+看板+什器	自	既	連	SRT2 ○
15-15	椅子+机+看板+什器	自	既	連	S1 ○
15-15	椅子+机+看板+什器	自	既	連	ST1 ○
10-18	椅子+机+看板+什器	自	既	連	DT1 △
10-21	椅子+机+看板+什器	自	既	連	D1 △
11-14	椅子+机+看板+什器	自	既	連	D1 △
12-17	椅子+机+看板+什器	自	既	連	* D1 △
12-18	椅子+机+看板+什器	自	既	連	* D1 △
12-20	椅子+机+看板+什器	自	既	連	* D1 △
14-12	椅子+机+看板+什器	自	既	連	D1 △
15-13	椅子+机+看板+什器	自	既	連	D1 △
17-16	椅子+机+看板+什器	自	既	連	D1 △
9-12	椅子+机+看板+什器	自	既	連	D1 △
9-13	椅子+机+看板+什器	自	既	連	D1 △
他11例					
4-13	椅子+机+看板+什器	自	既	窓	M1 ○
4-18	椅子+机+看板+什器	自	既	窓	M1 ○
15-18	椅子+机+看板+什器	自	既	窓	MDT2 ○
15-14	椅子+机+看板+什器	自	既	窓	MT2 ○



表注)「資料番号」は、前の数字が店舗、後の数字が1時間毎の観察開始時刻を示し、設えの組合せごとに分けて「設え-活動セット」を分析した。記号は表4~6、図6に準じ、「活動の種類」の数字は人数を示す。会話(T)は最も多い状態であるため分析の下位として扱った。

まず、複数の看板が並ぶ設え(Ⅰ)と、椅子・机と看板や什器を併せ持つ設え(Ⅳ)の双方を組み合わせるものが、過半の店舗でみられた(8/18店舗)。特に飲食店が該当しており、これは、店先に看板が並ぶ連続性をつくりながら、滞在のための椅子・机を設えるものと言える。また、椅子・机(Ⅲ)と、椅子・机に看板や什器を併せ持つ設え(Ⅳ)を組み合わせる店舗は、店先で滞在するための椅子・机を連続させながら、一部に看板や什器を置くものであり、娯楽施設等にみられた。さらに、同じ設えを反復する場合もあり、複数の看板(Ⅰ)の設えを反復するもの、椅子・机と看板や什器を併せ持つ設え(Ⅳ)を反復するものが、飲食店にみられた。以上の組合せは、店先に共通する要素があることで、設えの連続性を作るものであるのに対して、複数の看板(Ⅰ)と、椅子・机の設え(Ⅲ)を並べる店舗は、情報発信のための看板のゾーンと滞在のための椅子・机のゾーンをひとつの店舗で分けて設えるものと言える。

7.3 オリオン通りにおけるオープンカフェの配列

これまで検討してきた「設え-活動セット」およびその時間変化や店舗毎の組合せをもとに、オリオン通り全体におけるオープンカフェの配列の特徴を検討する。通りを街路や河川が交わる箇所に分けた4つのエリアで検討したところ、それぞれに特徴がみられた(図8)。

まず、最も西側に位置し、県庁と市役所を結ぶシンボルロードと東武宇都宮駅の間にあるエリア①について検討する。ここでは、複数の看板が並ぶ設え(Ⅰ)と、椅子・机と看板を併せ持つ設え(Ⅳ)

が配列されることで、店先に看板が並ぶ連続性が形成されている。その中に、滞在のための椅子・机が配置され、「座って人を眺める」(Ⅳ-2)シーンがみられる。ここでは、商店街の南側にイベント広場(オリオンスクエア)があることで、その様子を北側の店先から眺めるといった関係が成立している。また、北西端にある八百屋の店舗内外の什器で「立って買い物をする」(Ⅱ)行動もみられる。こうした設えと活動によるシーンが昼の12:00から夕方18:00までみられることで、オープンカフェが実施される通りの端部において、日中に賑わいが形成されているエリアであると言える。

次に、シンボルロードから中心市街地を横断する釜川までは、飲食店が多く集まるエリア②である。複数の看板が並ぶ設え(Ⅰ)とともに、椅子・机と看板を併せ持つ設え(Ⅳ)が複数あることで、商店街の看板の列とオープンカフェの椅子・机の連続性が形成されている。ここでは、「立って看板を見る」(Ⅰ-1、Ⅳ-3)や「歩いてスマホを操作する」(Ⅰ-2、Ⅳ-5)という活動が継続する中で、15:00から「座って人を眺める」(Ⅳ-2)や、18:00以降に「座って会話をしながら飲食する」(Ⅳ-1)という活動がみられる。人通りが多いオープンカフェの中央部分で、主に夕方以降の飲食店で道路空間の滞在がみられるエリアである。

次に、釜川から商店街で最も大きい複合施設(No.15)までのエリア③では、椅子・机(Ⅲ)と、椅子・机に加えて看板のある設え(Ⅳ)がみられる。飲食店の看板が比較的少なく、販売店や複合施設の

活動	座る □ (25)	立つ ○ (96)	歩く △ (35)
Ⅰ 複数看板 (47)		Ⅰ-1 (R) (43)	Ⅰ-2 (D) (4)
Ⅱ 複数什器 (8)		Ⅱ (S) (8)	
Ⅲ 椅子+机 (8)	Ⅲ-1 (ET) (3)		Ⅲ-2 (D) (5)
Ⅳ 椅子+机+看板+什器 (93)	Ⅳ-1 (ET) (15) Ⅳ-2 (P) (7)	Ⅳ-3 (R) (38) Ⅳ-4 (SRT) (7)	Ⅳ-5 (D) (22) Ⅳ-6 (MT) (4)

図7 設えと活動の関係

表8 時間毎の設え-活動セットの特徴 (156シーン)

時間	座る						立つ						歩く			
	飲食 [E]		人を眺める [F]		看板を読む [R]		買い物 [S]		スマホ [A]		遊び [B]		No.	業種	設え要素の組合せ (18店舗)	
	Ⅲ-1	Ⅳ-1	Ⅳ-2	Ⅰ-1	Ⅳ-3	Ⅱ	Ⅳ-4	Ⅰ-2	Ⅲ-2	Ⅳ-5	Ⅳ-6					
12:00~	1	2		6	7	1		1	1	5		1				
13:00~			1	3	4	2				4	1					
14:00~		2	1	2	4	2					2	1				
15:00~		1		4	4	2	4	1								
16:00~	1	2	2	2	4	1	1				2					
17:00~	1	3	2	6	2				2	4						
18:00~		3		7	5			1			2	2				
19:00~		2	1	5	3				1	2						
20:00~				6	4						1					
21:00~				1	1						1					
22:00~				1												
23:00~																
合計	3	15	7	43	38	8	7	4	5	22	4	13	販売	Ⅳ		

表9 店舗ごとの設えの組合せ (18店舗)

No.	業種	設え要素の組合せ
1	飲食	Ⅰ Ⅳ
3	飲食	Ⅰ Ⅳ
4	遊戯	Ⅰ Ⅳ
6	飲食	Ⅰ Ⅳ
7	飲食	Ⅰ Ⅳ
9	飲食	Ⅰ Ⅳ
10	飲食	Ⅰ Ⅳ
11	飲食	Ⅰ Ⅳ
15	複合	Ⅲ×2 Ⅳ
17	遊戯	Ⅲ Ⅳ
18	飲食	Ⅰ×2
12	飲食	Ⅳ×2
14	飲食	Ⅳ×2
5	飲食	Ⅰ Ⅲ×2
16	飲食	Ⅰ Ⅲ×2
2	販売	Ⅱ
8	販売	Ⅱ
13	販売	Ⅳ

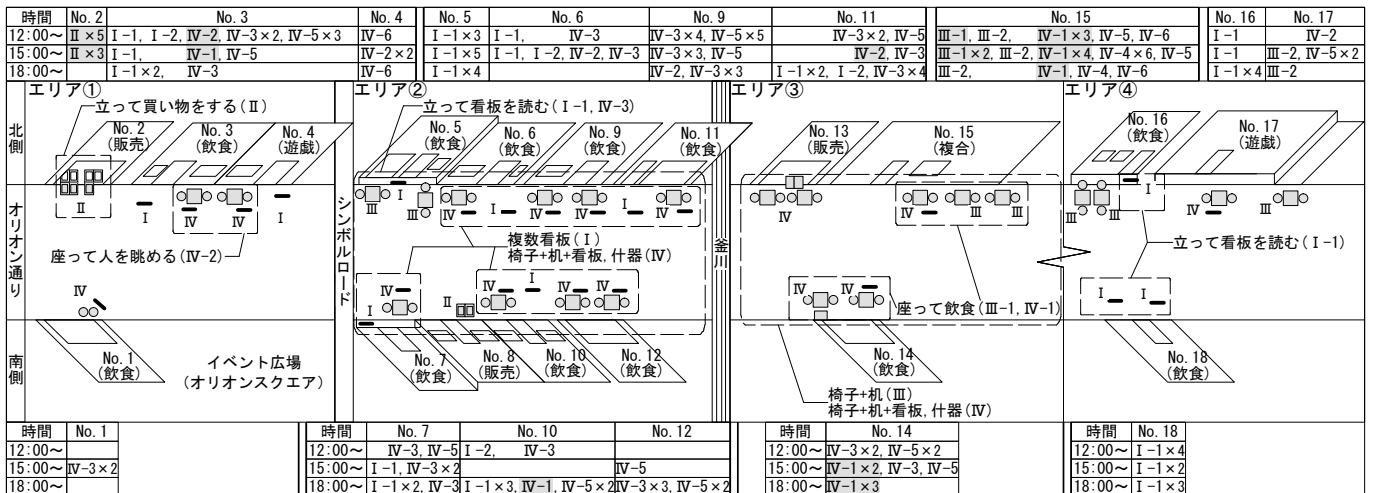


図8 設えと活動の配列からみたオリオン通りのオープンカフェのエリアの特徴

図注) No. 8とNo. 13は活動がみられなかった

で椅子・机を中心とする設えが集中しているエリアである。「座って飲食をする」(Ⅲ-1,Ⅳ-1)活動が昼の12:00から夜の18:00以降まで継続しており、オープンカフェにおける滞在の人数と時間ともに充実しているエリアであると言える。

最も東側にあり、二荒山神社と宇都宮城址公園を結ぶバンパ通りに繋がり、オリオン通りの入口に位置するエリア④では、店舗入口の複数の看板(Ⅰ)のゾーンと、椅子・机(Ⅲ)のゾーンがみられる。「立って看板を見る」(Ⅰ-1)が昼の12:00から夜の18:00以降まで継続している活動である。調査時点では椅子・机がありながら利用されることが少なく、商店街の入口において、看板を見る商業的な行動が主となっていると考えられる。

以上、オリオン通りのオープンカフェにおいて、4つのエリアごとに設えと活動およびその時間帯の特徴があることが分かった。

8. 結

宇都宮市のオリオン通りにおける商店街の地先型のオープンカフェの実践を通して、家具等の設えの空間的側面と、人々の利用における活動的側面の双方から、道路空間における滞在の特徴を検討した。

まず、オリオン通りにおける活動は、オープンカフェの実施後に増加しており、特に昼と夕方の時間帯に活動が多く、なかでも座る活動は夕方から夜間の飲食店の店先で多いことが分かった。また、家具等の設えについて、滞在、販売、情報発信のための要素の種類と、それらの店先での配置から検討し、要素が近傍にある組合せとして、複数の看板の列、複数の什器の列、椅子と机の組合せ、椅子・机と看板や什器の組合せという大きく4種類として捉えられることが分かった。

次に、オープンカフェの設えと活動の両側面を併せた「設え-活動セット」として、複数の看板の列を立てて見る商店街の情報発信のシーン、店舗内外にわたる複数の什器で立って買い物をする販売のシーン、椅子・机に座って会話しながら飲食をする滞りのシーンとともに、椅子・机に加えて看板や什器を併せ持つ混成した設えでは、座る、看板を見る、その前を歩くという多様なシーンが見られることを明らかにした。

さらに、オリオン通り全体における「設え-活動セット」の配列の特徴として、店先に看板が連続する中に椅子・机が配置され、「座って人を眺める」や店舗内外の什器で「立って買い物をする」などの賑わいが昼から夕方までみられるエリア、看板の列とオープンカフェの椅子・机が連続する中で人通りが続き、夕方以降の飲食店で「座って人を眺める」や「座って会話をしながら飲食する」という滞りがみられるエリア、椅子・机を中心とする設えが販売店や複合施設の前に集中し、昼から夜間まで「座って飲食をする」活動が続く滞りが充実しているエリア、商店街の入口で昼から夜間まで「立って看板を見る」行動が継続しているエリアという、4つのエリアごとに特徴がみられることを明らかにした。

以上の結果をふまえて、商店街における地先型のオープンカフェについて考察すると、まず、商店街の店舗ごとに設置される看板の存在は景観を妨げがちであるものの、通りの連続性および、椅子や机が置かれる店先と道路の通行部分の境界性を形成するため、適切に扱うことが課題である。また、地先型は、誰でも使えるフリーゾーンの空間として認識されにくく、本調査時に椅子・机で座る活動がやや少ない原因のひとつと考えられるが、その一方で、店舗の内外にわたる設えと滞在は、地先型な

らではの可能性である。オリオン通りでは、オープンカフェの実施1年を経て空店舗が減少しており、こうした課題と可能性をふまえて、今後も取り組みを継続していく予定である。

注

注1) 本稿で「オープンカフェ」とは、飲食店の利用者が店舗のテラスや外部席を料金を支払って利用するものではなく、街路や広場などの都市の公共空間において、休憩や滞在等のために不特定多数の人々によって利用されるものを指す。

注2) 「活動」と「アクティビティ」の用語の使い分けについて、本稿では、題目および本文では日本語の「活動」を用い、「アクティビティ調査」や「アクティビティ評価」等の専門用語となっている場合には「アクティビティ」を用いている。

注3) アクティビティ調査には、滞在者の滞在時間や行動を把握するアクティビティ・マッピングと、一定時間毎に活動を記録するアクティビティ・スキャンがあるが、本調査では、空間的なシーンを記録するのに優れた後者を採用した。

注4) 宇都宮市オリオン通りでは、以前から飲食店の椅子・机や、店舗の販売什器が日常的に道路に溢れ出しており、その状況を適正に管理しつつ、公共的な道路空間の利用を促進することを目指している。商店街の道路中央でオープンカフェを行う「独立型」も検討されたが、こうした経緯と道路の通行空間の確保を考慮して、店舗の「地先型」で実施することになった。

注5) ソトノバは、都市の外部空間の活用企画、運営、情報発信を行う団体である。

注6) 図表や本文で記載している時間帯は、12:00が12:00～13:00など、その時間帯の開始時刻を示している。

参考文献

- 1) 中村周, 安森亮雄, 渡邊翼: 地方都市中心市街地の空地における一時利用の設え—栃木県宇都宮市を事例として—, 日本建築学会技術報告集 第23号 第54号, pp.677-681, 2017.6
- 2) 泉山盛城, 中野卓, 根本春奈: 人間中心視点による公共空間のアクティビティ評価手法に関する研究—「池袋駅東口グリーン大通りオープンカフェ社会実験2015年春季」のアクティビティ調査を中心に—, 日本建築学会計画系論文集 第730号, pp.2763-2773, 2016.12
- 3) 増山淳, 坪井善道: 中心市街地活性化事業としてのオープンカフェの効果に関する調査・分析-国土交通省社会実験-オープンカフェ事業事例の分析を通して-, 日本建築学会関東支部研究報告集, pp.209-212, 2007.2
- 4) 清水奈緒, 井澤知旦, 浦山益郎, 松浦健治郎: オープンカフェ実験による街路空間の活用に関する研究—名古屋市久屋大通・広小路通の社会実験を通して—, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第42号, pp.669-672, 2004.2
- 5) 藤本和男, 嘉名光市, 赤崎弘平: 公共空間を利用した外部地先利用空間の利用実態と評価に関する研究—広島市京橋川のケーススタディー, 日本都市計画学会都市計画論文集, vol.46 No.1, pp.63-68, 2011.4
- 6) 有馬隆文, 大木健人, 出口敦, 坂井猛: 商業地街路における行動誘発要素と歩行者のアクティビティに関する基礎的研究—五感を刺激する商業地デザインと来訪者のアクティビティ—, 日本建築学会計画系論文集 第623号, pp.177-182, 2008.1
- 7) 宇都宮市: 平成29年度商店街通行量実態調査, 宇都宮市ホームページ
- 8) 安森亮雄, 塚本琢也, 水野裕介, 岩淵達朗: 宇都宮市オリオン通りのオープンカフェの家具デザイン, 日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集, pp.26-27, 2018.9

[2018年2月7日原稿受理 2018年5月24日採用決定]